

授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2019（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
法律学	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
商法概論	神山 静香	回答者の半数が履修理由として授業内容に興味があったからと回答しており、毎回の授業時に実施したレスポンスによるアンケートでも殆どの学生が授業の感想や質問等、積極的にコメントを記入してくれました。積極的な姿勢で授業に臨んでいた学生も多かったように思います。昨年度よりも予習・復習を実施したとの回答が増え、授業の理解度については回答者の80%以上が肯定的な回答をしており、「ビジネスに関わる法律を理解することができ、就職した際に役立つ知識を得ることができた」等、肯定的なコメントをいただきました。次年度における改善点として、前回の復習項目等を次回の授業のレジュメにも記載するためレジュメが重複し、逆にわかりにくいとのコメントがあったことから、この点を改善するとともに、法律の専門用語等について、できるだけ平易な言葉を使用して、わかりやすい説明を心掛けたいと思います。
社会科学データ分析	竹内 光悦	おおむね肯定的な意見が多かったのでよかったと思います。最終課題でテキストマイニングが多かった点は今後の参考にします。
英語コミュニケーションⅡA	阿佐美 敦子 ライト, アレックス	外国語科目は、一般に他の科目よりも、さらに多くの自学習の時間を要すると思います。授業の事前・事後によりしっかりと勉強していただけるよう、指導に努めます。
アジア文化論	高橋 美和	大問Ⅱの方は、おおむね平均値が若干低い程度で大きな問題はなかったようです。ただし、パワーポイント資料の提示の時間がやや短すぎたという指摘があり、改善したいと思います。文字情報が多すぎるスライドにもさらに工夫が必要かもしれません。一方、「この科目（系・分野）をさらに専門的に学びたい」は平均以下だったのですが、自由記述では、「東南アジアのことがよくわかって興味を持てた」というコメントが多く寄せられ、手ごたえを感じることができました。
学習心理学	粟津 俊二	・全項目（学生自身の自己採点除く）の平均値が3.5程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。 ・声や言葉の聞き取りやすい評定がやや低い（3.61）ため、話すスピードと声の出し方には気をつけるようにします。ただ、前に空席がありますので、前に来てもらえるともう少し聞こえやすくなると思います。
英語コミュニケーションⅡA	阿佐美 敦子 マルチェフ, ミレン・アンゲロフ	外国語科目は、一般に他の科目よりも、さらに多くの自学習の時間を要すると思います。授業の事前・事後によりしっかりと勉強していただけるよう、指導に努めます。
英語コミュニケーションⅡA	シオティーノ, アン 時田 朋子	呼びかけが足りなかったため、回答率が低く反省しています。英語学習のモチベーションを高めていただくためにも、授業の進め方を改善していきます。
演習ⅢA	篠崎 香織	前期は個々の課題の進め方をうかがっていました。後期は全体的にスピードアップできるように細かな指示を出してきます。 皆さんも自ら動くことを心がけてください。
ホスピタリティ論	児玉 桜代里	本科目はグループやクラスで議論を活発に行うためにレポート選抜にて履修人数を制限しています。授業のテーマに合った明確な履修希望理由があるかどうかを見極めのポイントとしていますが、アンケートを見ると、レポートにはそれらしい内容を書き、本当はそこまで授業テーマに興味があるわけではなく空きコマを埋めるために履修した学生も2~3割かいたようです。そのせいか、授業態度もスマホをいじったり集中力が維持できない場面も数名見受けられ、理解度や満足度にも影響があるように感じます。しかし、双方向のアクティブラーニングで7~8割の学生は真剣に取り組み、理解度・満足度が高く、成長を実感したとのこと。この割合は、2・6・2の法則の通りでした。今年度は課題図書を読んでいなくても履修希望を書けば許可したのですが、来年度も同じ方法で選抜するかどうかを検討したいと思います。
演習ⅢA	高木 裕子	「1. あなた自身について」の回答が誤って回答されていたようにも見受けられましたが、それ以降の回答結果を見て、また、前期での努力や成果を見て、このまま頑張ってください。
演習ⅢA	粟津 俊二	・全項目の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。
演習ⅢA	原田 謙	説明のわかりやすさ、配布資料のわかりやすさなどは4.5点を超えており、比較的満足してもらえたようです。後期も、PBLやゼミ論文の作成をがんばりましょう。

[2019 (前期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	広井 多鶴子	授業を通して自分の成長を実感し、自己評価や満足度のポイントも高い。この授業では読む文献の量も課題もかなり多かったが、それぞれがそうした課題に真摯に取り組んだ成果だと思われる。
演習Ⅲ A	松下 慶太	比較的高い評価であり、今後も1人1人に対して丁寧にしていきたい。
演習Ⅲ A	谷内 篤博	ぜひでもあるので、全体的に高い評価となっており、一定の評価は得られたものと思っています。今後も双方向のわかり易い授業にしていきたいと思えます。
演習Ⅳ A	篠崎 香織	前期は就職活動があったため、個々の進捗が思わしくなかったため、後期はしっかり管理して進むように促していきます。
英語コミュニケーションⅡ A	ミラー, ブルース 富倉 教子	今学期は実際に英語が使用される状況なども考慮しながら、新しい教材または状況においてその全体像(概要)を把握することに焦点を当てて授業を行った。アンケート結果で授業理解度が平均値より低かったことなどから、今後は語彙や文法など細部にも掘り下げ、学習者が個々の状況を正確に捉え、対応できるよう適宜説明などを施しながら授業を行ってほしい。また進むスピードに関しても、授業で取り扱う内容をさらに絞り込み、無理のないペースで授業が進められるように改善を図りたい。全体を通して「専門的に学びたい」と思っている学習者が比較的多かったため、その学習意欲をさらに持続し高めていけるよう工夫していきたい。
メディア表現論	駒谷 真美	本講義の履修生の多くは映像制作初心者だったが、全5グループが、試行錯誤しつつも作品を完成し発表できたことは、全履修生20名の努力の賜物に他ならない。 本講義では、3ヶ月かけて映像制作を行っており、企画討論会・中間合評会を経て、最終回の講義は、最終合評会で外部メディア関係者がお越しくださり、講義終了まで有意義なアドバイスを多く頂戴した。履修学生は、その貴重な助言を元に大学のオープンキャンパス公開に間に合わせるため、あきらめず最後までベストを尽くして最終作品を改善している。その結果、アンケート回答の時間を確保できなかったかもしれず、20人中9人回答であった。よって、アンケートの詳細について、統計的な量的考察は差し控えた。次年度以降は、アンケートの実施時期を検討したい。 今期は、大学のホームページ公開も控えており、前年度の制作作品よりもより高度な内容が求められていた。履修生全員がこのプレッシャーに耐えて、5チーム個々のよさを存分に発揮した作品が完成した。「この授業を通じて自身の成長を実感できた」と回答してくれたことが、何よりの喜びである。
演習Ⅳ A	松下 慶太	提出がなくコメント不可。
演習Ⅳ A	粟津 俊二	・回答者数0というのは、さすがの粟津ゼミ4年生という感じです。問題があれば、直接言うだろう、と思っています。
演習Ⅳ A	高木 裕子	就活その他活動で多忙だったかと思います。次回はお願いします。
演習Ⅳ A	原田 謙	すべての項目が4.5点以上で、比較的満足してもらえたようです。卒論の完成を目指して、後期もがんばりましょう。
演習Ⅳ A	広井 多鶴子	自己評価についてはやや厳しい評価が付けられているが、自分の成長を実感できたという評価が多い。卒論の完成に向けて、それぞれが努力した成果だと思われる。
演習Ⅳ A	谷内 篤博	全体的に満足のいく結果となっています。今後も継続してわかりやすい授業にしていきたいと考えています。
ワーク・ライフ・バランス論	山根 純佳	予習復習時間の回答にバラツキがあったので、統一されるように工夫したい
データベース基礎	竹内 光悦	やや回答率の低さが影響するとは思いますが、全体平均よりは上回っていたのでほっとしています。今年から新しく取り組みをしていることもあり、少し荒削りのところがあったかと思いますが、自由回答をみても有意義だったようでよかったです。

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
企業戦略論	柳田 志学	<p>企業戦略論の受講、お疲れさまでした。みなさんからのコメント、すべて目を通しました。いろいろと書いてくれた方、どうもありがとうございます。</p> <p>数ヶ月間という短い期間ではありましたが、皆さんの今後の将来や勉強にとって何かのヒントとなったのであれば幸いです。世の中は目まぐるしく変化しており、昨日まで「常識」だったはずの物事が数日後には「非常識」になってしまうことも珍しくありません。</p> <p>そんな時代において求められるのは「モノの見方」です。つねに「なぜこうなっているのだろうか？」という問題意識を抱きつつ、自分自身で物事を考える癖をつけてください。</p> <p>後期に受講される人は後期の授業でお会いしましょう。前期で終了という方は、今後のご活躍を陰ながら応援しています。ぜひ実践女子大学の学生であることに自信と誇りを抱きつつ、日々を過ごしてもらえればと思っています。</p>
メディア心理学	駒谷 真美	<p>履修学生188人は、15回の講義と5回のリフレクションシートと1回の課題レポート（NHKEテレ番組制作者講演とNHK放送博物館のフィールドワークを含む）について、最後まで真面目にかつ積極的に取り組んでくれた。アンケートは、最終回の講義の終了間際に時間を取って実施した。「アンケート回答率」が67.6%（188人中127人回答）であった。</p> <p>その結果、前年度より100人増加した大人数の講義で、全15項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変な難い。</p> <p>学生自身については、93%の学生が「自分の成長を実感」し、95%が「授業に満足」していた。講義については、「シラバスと到達目標が一致」が99%、「授業スピードが適切」「説明がわかりやすい」が97%、「教員の言葉は聞き取りやすい」「パワポや配布資料がわかりやすい」93%、188人の大人数の講義にも関わらず「双方向授業の工夫」83%と高評価をもらえた。</p> <p>本講義は、履修生が大人数であり、「メディアと人間」の関わりについて講義するので、パワポによる要旨把握の推進、OHCによる立体掲示による視覚化、最新メディア意識行動を映像情報として提供するなど、ICTを利活用している。更に、全履修生が双方向に取り組めるように工夫している。responによる出席管理と講義中のライブアンケート、manabaによる資料教材の提示とリフレクションシートや課題レポートの提出を行っている。これにより、履修生は、講義前に準備し、講義中も積極的に臨み、講義後も学習継続・発展の機会を有効に使い、かつ自分の提出状況を把握できていた。</p> <p>今後も、その場で学生たちの学びを見取りつつ、関心を促進できるようにアクティブかつインタラクティブな講義にチャレンジしていきたい。</p>
簿記論 I	小澤 康裕	<p>昨年から取り入れた反転授業用のビデオは今年度も活用してもらえたようで良かったです。</p> <p>期末試験の出来は全体的に例年通りでした。「自己採点（成績評価）は何ですか？」というアンケートでは皆さんは厳しめに自己採点していますが、それよりは良い成績が取れているはずですよ。</p> <p>後期の簿記論Ⅱも次年度も、もう少しビデオでの解説を丁寧にして、授業中は問題演習に少し多めに時間を割きたいと思います。</p>
演習Ⅱ A	谷内 篤博	<p>全体的には4.5前後と比較的に高い結果となっていますが、ゼミ生全員に満足度を高める授業にしていきたいと考えています。</p>
演習Ⅱ A	高橋 美和	<p>おおむね平均値程度であり、全体としては問題なかったかと思えます。グループワークの他、個人での複数回の提出物課題に個人発表と、かつして楽な演習ではなかったと思いますが、皆さんよくついてきてくれました。「レポートの書き方・引用の仕方がよくわかった」「もっと長いレポートを書いてみたい」「新聞記事をもっと読むようにしたい」といった前向きなコメントをたくさんいただきました。一方で、私からのフィードバックで納得がいかないことがあった、手書きでもらったコメント文字が読みにくい、といった指摘も受けましたので（ご指摘、ありがとうございます）、今後さらに丁寧なフィードバックをするよう、改善していきたいと思えます。</p>
演習Ⅱ A	山根 純佳	<p>説明がわかりにくかったとの回答があったので説明の仕方を工夫したい</p>
会計学総論	小澤 康裕	<p>今年度だけの担当だったため、難易度や授業の進め方については不安がありましたが、皆さんしっかり取り組んでくれたので、授業も順調に進めることができ、助かりました。毎回Quiz（小テスト）をする予定ではなかったのですが、受講生皆さんの希望により、毎回やることになり、それを目指して真面目に取り組んでくれたのかもしれないかもしれません。実際にアンケート調査の自由記述にもそのようなコメントがありました。期末試験もとてもよく出来ていて感心しました。</p> <p>会計学の入口には立てたと思うので、これからもっと勉強していきたい人はぜひ資格等にチャレンジしてほしいと思えます。</p>

[2019 (前期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
簿記論 I	小澤 康裕	「簿記はやれば分かる」と繰り返されていたので努力次第で点数は上がるのだということや自信につながった。」という受講者コメントに全てが集約されていると思います。皆さんの能力があれば、簿記論 I の内容は「やればできる」のです。できるようになれば、「自信」にもつながりますし、簿記論 II でも同じように頑張れば良いと思えるはずです。 これからも「予習復習をすることの大切さを学んだ。」という受講者コメントの通り、しっかり勉強することで成長してほしいと思います。そのための手助けとなるように、ビデオの更なる充実と懇切丁寧な説明を心がけます。
演習 II A	織田 弥生	演習IIAでは、3年生以降につながるようなアカデミックスキルの基礎の習得を目指しました。具体的には文献を探す、レジュメを作成し発表する、調査項目を作る、データを取り、結果をまとめる、パワーポイントで結果をプレゼンテーションする、発表に対して質問する、といったスキルです。授業の内容と方法、総合評価とも、全て平均以上の評価でした。予習復習時間も平均時間を大きく超えており、欠席も非常に少なく、皆さん非常に積極的に授業に臨んでいただいていたと思います。「自身の成長が実感できた」という評価も高く、目標としていたスキルを身に着けることができたのであればよかったですと思います。自由記述ではパワーポイントの使い方やプレゼンテーションの仕方が身についたという意見が多く寄せられました。来年度以降の専門ゼミにも是非役立てて頂ければと思います。授業の進め方に関するご意見もいただきましたので、今後もアカデミックスキルの基礎を身につけられるよう、工夫していきたいと思っています。
演習 II A	篠崎 香織	レポートをさらに良くするための検討や、企業への企画提案等、難しい課題に取り組んでもらいましたが、多くの履修学生がついてきてくれました。もっと議論が盛り上がる仕掛けを検討していくように心がけていきます。
演習 II A	松浦 常夫	おおむね評価が高くて安心しました。
演習 II A	原田 謙	説明のわかりやすさ、配布資料のわかりやすさ、聞き取りやすさは4.5点以上であり、比較的高評価でした。この科目で学んだプレゼン方法などは、3年次以降の演習科目で活用してみてください。
演習 II A	井上 綾野	演習IIAは、学生の緊張感がなくなりつつあるところで、メリハリをつけるのが難しかった。何のためにやっているのか、授業の目標と内容を、学科での学びにうまく結び付けられるよう努力したい。
国際関係概論	神山 静香	「国際的な問題について、広い視野を持って考える力が身についた」や「国際的な様々な法律についての理解が深まった」など肯定的なコメントをいただきました。ありがとうございました。また、毎回の授業時に実施したアンケートでは、短い時間にもかかわらず、殆どの受講者が授業で扱った論点への意見や質問等を沢山記入しており、積極的な姿勢で授業に臨んでいた受講者が多かったと思います。授業の理解度について、回答者の80%以上が肯定的な回答をしています(「十分に理解できた」(5%)、「ほぼ理解できた」(26%)、「まあまあ理解できた」(53%)、理解できなかったと回答した人もいました(「時々理解できなかった」(7%)、「まったく理解できなかった」(9%)。履修者が非常に多かったため、双方向の授業が難しく受講者の理解度を十分に把握することが難しかった点が反省点です。また、授業で扱う法律的な論点に初めて触れる受講者も多かったと思います。基礎的な知識を説明するために多くのスライドを早口で説明することになり、説明に追いつけないとのコメントがありました。この点については、次年度、改善したいと思います。
人材開発論	谷内 篤博	全体的には4.5を超えておりある程度の評価は得られたものと思いますが、授業のスピードが早いようで、今後は学生の理解を見定めてわかり易い授業を展開したいと考えています。
特別講義 A	高橋 美和	「この科目(系・分野)をさらに専門的に学びたい」は平均を若干下回ったのですが、カンボジアについて学び、さらに知りたくなったとのコメントが複数寄せられたことは嬉しい限りです。提出物に対する全体フィードバックは授業内でいたしました。個人個人にコメントをつけて返却できなかったものがあり、その点、申し訳なく思っております。
社会調査概論	竹内 光悦	回答率が低い点は調査系の授業としては残念でした。また満足度もやや高くないため、こちらも気になるところです。自由回答をみると、いくつか参考になる指摘もありましたので、検討したいと思います。
人的資源管理	谷内 篤博	残念ながらわかり易い授業は心がけたつもりであるが、やはり内容が専門的なためか、授業が難しかったようです。専門的な授業こそわかりやすく解説することが大切だと思いますので、学生の理解に即して十行展開を考えていきたいと思っています。

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	竹内 美香	<p>前期があつという間に終わってしまいました。</p> <p>2019年前期は、メンバー全員でミニ卒論調査的な流れを体験する調査実習「新入生のライフスタイルと悲観・楽観」を行いました。既存の「悲観・楽観尺度」得点に影響するライフスタイルをグループメンバーで相談して考える過程では、相互に遠慮もあり、戸惑っている様子でしたが、少しずつ意見も出るようになり、教員としては頼もしく感じたことでした。調査実施後のデータ入力は迅速で、ゼミメンバーの皆さんの誠実さに、これからのゼミが楽しみになった教員です。 all for one, one for all の精神は、非常に価値のあるものです。これからもメンバーのお互いを信頼して、頑張りましょう。</p> <p>毎年、夏休みの開始直前に集中演習の形で、4年生と一緒に統計ソフトの使い方も体験実習して頂いています。今年の3年生には、それまでの前期期間に基礎解析の部分を徹底して実習して頂きました。地道な作業ですので、正直、あまり楽しくはなかったかも知れませんが、解析作業の実際は自分で考えて、自分で使いこなすことが必要となります。社会に出てからも、この技術を身に付けておくこと大きな自信になるはずです。集中演習でお伝えした二次解析の方法も試して、秋の調査報告会に備えましょう。Excelは基本的な関数だけでも使い方でとてもいろいろな解析ができますので、これからも便利に「使い倒して」、さらにご自身の専門性を高め、成長を実感できる取り組みを継続してください。</p>
演習Ⅲ A	阿佐美 敦子	<p>前期中は活発なゼミ活動を展開することができ、また8月にはタイ研修、9月には国連大学研修生交流会と、ゼミの皆さんの積極的な参加を嬉しく思います。後期にも盛んな交流が予定されていますので、円滑に進むよう指導に努めます。</p>
演習Ⅲ A	角本 伸晃	<p>問11～15について、平均より高い評価をつけてもらいました。これは授業時間外の指導もありますが、東京サマーランドとの産学連携や学生観光プレゼン大会での入賞（最優秀賞、優秀賞）なども評価されたと思います。</p>
演習Ⅲ A	駒谷 真美	<p>今期のゼミ生は、講義開始早々、Jフェスやりんごプロジェクトなど学内の行事に相次いで参加した。同時に「渋谷のラジオ」に月一で生出演し、外部のメディア活動もあった。そのような中で、自分の卒論テーマについて先行研究や文献にあたり、最終的にオリジナリティに富んだテーマを選定できていた。この試行錯誤のプロセスを体験したことで、今後の卒論や就活活動に際してのレジリエンスにつながってくれると思う。</p> <p>今期は、本講義の最終回まで「卒論テーマ討論会」「卒論序論1st draft執筆」を行ったので、ゼミ生はプレゼン準備とプレゼン後のdraftに積極的に取り組んでいた。また4時限目「演習ⅢA」の後に、本指導教官が担当する5時限目の「情報社会論」を履修しているため、移動と準備に時間を取られていた。そのためアンケート回答まで手が回らなかったかもしれない12人中3人回答であった。よってアンケートの詳細について、統計的な考察は差し控えたい。後期のアンケートは、学生の協力が得られるような時間帯を検討したい。</p>
演習Ⅲ A	山根 純佳	<p>予習復習時間の回答にバラツキがあったので、統一できるように工夫したい</p>
演習Ⅲ A	時田 朋子	<p>呼びかけが足りなかったため、回答率が低く反省しています。よりよいゼミになるよう、後期もがんばりましょう。</p>
行動科学	松浦 常夫	<p>例年と同様の結果でした。まだ、工夫が必要なようです。</p>
経営分析論	石井 宏宗	<p>全員、講義によく取り組み、それぞれの課題を克服していた。当方の課題としては、会計を理解している学生には、問題数が不足していたため、次回機会があれば、毎回の講義での問題数を増やしたい。</p> <p>石井宏宗</p>

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
情報社会論	駒谷 真美	<p>本講義は、情報社会の根幹を理論的に追究する難易度の高い講義内容である。特に今期から、PBL (Project based learning)・アクティブラーニング・ピアラーニングの手法を取り入れて、履修生全員が主体的に参加する形態に大幅変更した。その結果、履修生は次第に自分たちの視点でグループディスカッションとプレゼンを行えるまでになっていた。アンケートは、39人中29人が回答した。</p> <p>その結果、全15項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変有難い。</p> <p>学生自身については、100%の学生が「自分の成長を実感」し、90%が「授業に満足」していた。講義については、「シラバスと到達目標が一致」が100%、「説明がわかりやすい」「教員の言葉は聞き取りやすい」が97%、「授業スピードが適切」「パワポや配布資料がわかりやすい」「双方向授業の工夫」93%と高評価をもらえた。</p> <p>履修生の真摯に取り組む姿が、PBL (Project based learning)・アクティブラーニング・ピアラーニングで促進され、本講義の目的である「クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシー (Media and Information Literacy, MIL) の育成」に繋がったと考える。</p>
演習Ⅳ A	山根 純佳	<p>予習復習時間の回答にバラツキがあったので、統一できるように工夫したい</p>
演習Ⅳ A	阿佐美 敦子	<p>4年生の前期は、どうしても就活が中心の生活になりがちで、ゼミの活動、卒論研究は思うようにはかどらない面がありました。これを省みて、後期は研究を進めてより良い成果を出していただけるよう、指導に努めます。</p>
演習Ⅳ A	角本 伸晃	<p>演習ⅣAは時期的に就活と被っているので、卒論作成との両立が大変だったと思います。</p> <p>多くの学生が卒論の完成に向かって、原稿の内容を深め、量も増やすことができました。</p> <p>後期は卒論の完成に向けて頑張ってください。</p>
演習Ⅳ A	竹内 美香	<p>前期があっという間に終わってしまいました。</p> <p>2019年前期も、メンバー全員が卒論調査を実施することができました。まずは一安心です。15名のメンバー全員の調査を完了するのは、正直、とても緊張しました。計画を立てて必ず実行することの大切さを、一緒に体験することができたと思います。</p> <p>次はデータ入力と、解析です。頑張りましょう。</p> <p>就職活動や進路準備で、気持ち的には落ち着かない4年生の前期です。猛暑もあり、体調を崩す時もあったかと思いますが、4年生同士で励ましたり、努めて明るい声を掛け合うメンバーの優しさには教員自身もずいぶん励まされていました。</p> <p>all for one, one for all の精神は、4年の個別の論文執筆の取り組み状況でも依然として重要な「芯」になることと思います。これからデータ解析から論文執筆です。後期もあっという間に過ぎます。またゼミメンバーのお互いで助け合い、やさしい気持ちの交感でサポートしながら頑張りましょう!!</p> <p>8月6日には集中演習の形で、3年生と一緒に統計ソフトの使い方も体験実習して頂きました。自分で考えて、自分で使いこなすまでの修得を、卒論の取り組みの中でしっかり研鑽してください。特にExcelは基本的な関数だけでも使い方でとてもいろいろな解析ができますので、これからは便利に「使い倒して」、さらにご自身の専門性を高め、成長を実感できる取り組みを継続してください。</p>
演習Ⅳ A	時田 朋子	<p>呼びかけが足りなかったため、回答がありませんでした。後期もがんばりましょう。</p>
消費者保護論	金津 謙	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。</p>
地域社会学	原田 謙	<p>授業のスピードや聞き取りやすさ、説明のわかりやすさなどは4.5点以上であり、比較的高得点でした。ただし、双方向授業の工夫については4.2点だったので、来年度はResponの使用方法を改善したいと思います。</p> <p>成績評価は、+Aが1割、Aが2割、Bが5割強、Cが1割、不合格が数%でした。</p>
経営学概論	篠崎 香織	<p>常時ほぼ120人の出席があり、つい一方的に話すことが多くなっていました。全体的に話をふっていただけるように心がけていきます。</p>

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
コミュニケーション概論	高木 裕子	<p>「前期」は入学最初の授業ということもあり、授業形態やレポートの書き方他でも慣れないところもあったと思いますが、2回にわたるレポートもこなされ、これからは大学での学業も順調に進められるのではないかと思います。できるだけ自分で講義内容をまとめたり、文字コミュニケーションの役割を考えたり、日常生活でもコミュニケーションとは何かを考えながら、ご自身のコミュニケーション力が高められるようにしてください。私もできるだけわかりやすいような授業ができるように努力します。</p>
心理学概論	竹内 美香	<p>はじめて心理学を学ぶ人も多かったことと思います。 本科目は「情報処理機構(システム)としての人間(生活体)」について、心理学の多領域から説明することを目指しました。多くの受講生は、当初、「なぜ心理学が必修なのか」と思い、経営学を学びたいと思っていた自分にとっては当初、興味はなかった」「人の心が読めるようになるのではないかなどと思っていたので、まったく異なっていて意外だった。」という感想も散見されました。 中盤から「心理学は心の動きを行動を観察したり測定することで推定しようとしている科学だということがわかった」などの授業コメントをもらう頻度が増えて担当教員は頼もしく思いました。「心理学概論」のような科目は地味なのですが、基礎を学ぶことで多様な事象を考える視点が変わることがあります。それが「概論」を「学ぶ」価値だと思っています。 「なぜ人は(動物は)、そのような行動をするのだろうか」というのは日常の場面で抱く疑問ですが、そこには感覚器官を経て知覚経験が生じ、情報統合して反応形成するまでの細かな過程が存在しています。そのことを「心理学概論」では、科学的にどのように測定・分析するか、説明するようにしていました。</p> <p>特に、「学習」では、行動を三項随伴性のモデルに当てはめて、どのような社会的手がかりに行動が連合されているか、どのような形で強化され続けて行くか説明しました。実際に、三項随伴性のメカニズムは私たちの生活の身近な場面でも抽出することができる仕組みです。</p> <p>「記憶と認知」の単元で、さらに複雑な「わかる」「つながる」「理解する」までの高次処理についての研究を紹介しました。「記憶と認知」の内容にきて、ようやく「心理学らしい内容」と感じるようになった人も多かったかもしれません。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>今期はまた、視点を決めて人の経験や反応を数値化する「心理学」の重要な側面を体験して頂くために、何度か、4年生の調査演習にも回答者として参加して頂きました。一見バラバラに感じる質問項目も、ある程度の回答数を集積して解析することで、人の心や「態度」の傾向を一定以上の精度をもって推定できるようになります。ただナラティブに解釈しているのではなく、心理学は再現性を保証する数理統計を用いる科学の一領域であることを、リアルに理解して頂けたらと考えていました。</p> <p>心理学は人の生活する場面に、たくさんの研究主題を見つけます。生活場面で、人の動きを観察し、その行動・反応の前後にどのような社会的環境の動きがあるのか考えるところに、研究のテーマも見つけることができるでしょう。まずは自分自身で「仮説」を考え続ける態度を身につけてください。「心理学概論」に続く学びとなるでしょう。講義担当者としては、皆さんの探求心が伸びることを強く希望するところです。</p>
家族社会学	広井 多鶴子	<p>この授業では宿題を多く出した。大変だったがそれで理解が深まったという意見が少なくなかった。そのことが、この分野をもっと専門的に学びたいという評価につながっているのではないかなと思う。双方向型の授業をもっと進めることが課題である。</p>
流通サービス論	井上 綾野	<p>応用科目ということで、細かいところまで事例を多く用いた点は良かったように思う。来年度に向けてブラッシュアップしたい。</p>

[2019 (前期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生涯心理学	竹内 美香	<p>人は一生涯を通して成長・発達・変化し続ける存在です。特に胎児から誕生、新生児、乳児、幼児の時期の物理的・社会的環境はその後の人生を方向づける影響力を持っています。自分がどのように育てられてきたか、今、どのような「地点」に居るのか、これから自分や次の世代をどのように育てるのか。考えるべき課題は山ほどあります。そのことに気がついた受講生が多かったので、科目の目標もほぼ達成できたと考えています。</p> <p>科目では誕生から幼少期のアタッチメント(愛着関係)と「基本的信頼感」の形成(獲得)と、子ども時代の発生論的認識論のプロセスに対する受講生の関心も高く、重点的に説明しました。</p> <p>日頃の授業ワークシートもよく考察して書く受講者が多く、できるだけ授業内容に反映させるように、毎回の授業内容も調整していましたが、いかがでしたでしょうか。限られた授業時間の中で少しでも双方向性を確保するようにしたのです。受講生数が例年以上に多く、このような大教室講義で双方向性をどのように確保するかは、これからの課題と感じています。</p> <p>昨年の反省点成人期以降、人生の集大成と死生観などの事項について、今年度は時間をかけることができたのは、受講生の皆さんの熱心な振り返りシートに勇気づけられた賜物です。</p> <p>受講生の皆さんは「お母さんと赤ちゃん」に強い関心を持っていますが、同時に「青年期の自我同一性形成」「キャリア形成」「成人期以降の成熟と家族」「人生の集大成と死生観」にも、大きな問題意識を持っていることを示してくださいました。これからの「生涯心理学(発達心理学)」の内容を拡充することに対して、講義担当者も勇気づけられたと思います。</p> <p>「生涯心理学」は、生まれる前から、生涯の終結時までの「人の永続する発達」について扱う分野です。</p> <p>ご自分を1つの生きた事例として、観察・考察・試行しながら、学び続けてください。一緒に、さらに考え、学んで参りましょう。</p>
演習ⅣA	織田 弥生	<p>演習ⅣAでは3年時に行った研究の発表を行い、また卒論調査の準備と実施を行いました。就職活動で時間がない中、大変だったと思います。お疲れ様でした。回答人数が少なかったため数値に関するコメントはしませんが、おおむね満足していただけたのかなと思います。ⅣBではよいよデータの統計解析と卒業論文の執筆に入ります。今まで学んだことの集大成になりますので、頑張りましょう。</p>
演習ⅡA	金津 謙	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。</p>
演習ⅡA	数野 昌三	<p>演習ⅡAは、専門ゼミ選択へ繋がる重要な時期です。演習ⅡAで培った力を演習ⅡBへ継続させ、自身の希望する専門ゼミ選択へと繋げていって下さい。</p>
演習ⅢA	神山 静香	<p>教員からの指示が十分でなく回答数が少ないですが、ほとんどの項目で肯定的な評価を得ることができ、また、ビジネスに関する法律の基礎的な知識が身についたとのコメントをいただきました。ありがとうございます。授業を通じて成長が実感できたとの項目で肯定的な回答があったことを嬉しく思います。予習復習時間の項目にも表れていますが、受講者の皆さんが多くの資料を読んで、十分な準備を行うなど、意欲的に課題に取り組んでくれたことに感謝しています。今後も皆さんが主体となってゼミ活動を行うことができるよう、一人ひとりとコミュニケーションをとり、それぞれの目標や興味を把握しながらゼミを進めていきたいと思っています。</p>
演習ⅢA	井上 綾野	<p>希望した教員のゼミではなかったにもかかわらず、結束力が強く全体としていい演習活動ができたように思う。</p>
経済発展論	角本 伸晃	<p>この授業は国際化の中で非常に重要な科目と思いますが、問15で4.05とまずまずの満足を持っていただきました。しかし、問8は3.74と低かったので、次年度は質問をしやすくするなど、双方向授業に工夫をしたいと思います。</p>
メディア・コミュニケーション論	松下 慶太	<p>出席を取らないのは文部科学省意向に反しているとありますが、「出席」を評価に入れることはむしろ文部科学省としては避けられており、そのため「参加」を評価対象としています。小テストを期限までに忘れるということについては出題のタイミングを授業中にするなど対応していきたいと思っています。</p>
心理学研究法	松浦 常夫	<p>今年は力をいれたはずですが、8人ですが評価が芳しくなかった。反省したいと思います。</p>

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅳ A	神山 静香	教員からの指示が十分でなく回答数が少ないため、全体の評価ということではできないかもしれませんが、ほとんどの項目で肯定的な評価をいただき、ありがとうございました。欠席回数も項目にも表れていますが、就職活動の時期が早まっていることもあり、前期のゼミでは十分な指導ができなかったと思いますが、一人ひとりが真剣に卒論のテーマを検討し、意欲をもって執筆に取り組んでくれたと思います。十分なコミュニケーションを取りながら、今後も卒論指導を行っていききたいと思います。
演習Ⅳ A	井上 綾野	就職活動と卒論指導との両立が難しかったと思う。また、ゼミが変わって戸惑いがある中で、個々の学生がゼミに対して真剣に取り組んでくれた点は非常に良かったと思う。
演習Ⅳ A	数野 昌三	卒業論文中間発表、お疲れさまでした。今回発表できなかった学生は、後期に発表しましょう。次回会うのは9月末、11月末には全員、卒業論文を完成するよう、ファイトでいきましょう！
NPO・NGO論	神山 静香	授業の理解度について、100%の回答者から肯定的な評価をいただきました。ありがとうございました。テキストを読み、理論を暗記をするという性質の科目でないため、様々な事例についての資料や新聞記事等を読んだり、ドキュメンタリー等の視覚的な教材を用いて受講者自身に考えてもらうことを目的としましたが、配布資料が多いとのコメントがありました。この点については次年度の改善点としたいと思います。
人間社会学総論	広井 多鶴子, 竹内 美香, 山根 純佳, 駒谷 真美	この授業は、昨年度から人間社会学部で学ぶための「入門科目」としての位置づけを明確にし、学生が様々な学問分野や研究課題に触れられるよう、多くの教員が授業を担当している。そのため、専門性や双方向型などの点で評価が低くならざるを得ない面があるが、自由記述では様々な分野を学んだことで、自分の学ぶ方向を考えることができたといった声が多かった。来年度は、より統一感のある授業となるよう工夫して行きたい。
社会学概論	原田 謙	授業のスピード、説明のわかりやすさや聞き取りやすさ、配布資料のわかりやすさなどは4.5点を超えており、比較的高評価だったようです。ただし、この科目をさらに専門的に学びたいかという項目に関しては4.0点にとどまったので、「展開・応用」につながる内容を増やしたいと考えます。 成績評価は、+Aが20%強、Aが25%、Bが25%、Cが20%強、不合格が5%でした。
人間社会学総論	広井 多鶴子, 竹内 美香, 山根 純佳, 駒谷 真美	この授業は、昨年度から人間社会学部で学ぶための「入門科目」としての位置づけを明確にし、学生が様々な学問分野や研究課題に触れられるよう、多くの教員が授業を担当している。そのため、専門性や双方向型などの点で評価が低くならざるを得ない面があるが、自由記述では様々な分野を学んだことで、自分の学ぶ方向を考えることができたといった声が多かった。来年度は、より統一感のある授業となるよう工夫して行きたい。
発達臨床心理学	佐藤 恵美	この授業を取っていただき、ありがとうございます。 授業中の私語も少なく、私も快適に授業をすすめることができうれしく思います。来年はもう少しケース例を増やし、皆さんに考えてもらえる授業にしていきたいと思います。 ありがとうございました。
カウンセリング基礎	齋藤 順一	カウンセリング基礎の齋藤（まいける）です。 授業アンケートに回答していただきありがとうございました。 いただいた回答は、今後の参考とさせていただきます。 1限の授業で大変だったかと思いますが、皆さんと一緒に学ぶことができ大変嬉しく思っております。 全15回の講義の間でしたが、本当にありがとうございました。 皆さんの今後の人生において、本講義の内容が少しでもお役に立つことを願っています。 それでは、皆さんの健康と幸せを心よりお祈りしています。 担当教員 齋藤順一
臨床心理学	齋藤 順一	臨床心理学の齋藤（まいける）です。 授業アンケートに回答していただきありがとうございました。 いただいた回答は、今後の参考とさせていただきます。 至らない点もあったかと思いますが、皆さんと一緒に学ぶことができ大変嬉しく思っております。 全15回の講義の間でしたが、本当にありがとうございました。 皆さんの今後の人生において、本講義の内容が少しでもお役に立つことを願っています。 それでは、皆さんの健康と幸せを心よりお祈りしています。 担当教員 齋藤順一

[2019 (前期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
保険論	中居 芳紀	多くの学生にとって、保険は「身近なものではなく」「取っ付きにくい」制度のようです。昨年から、ケーススタディで保険を考える時間を設けましたが、保険の理解に役立ったようです。将来、家計の責任者になった時、講義内容を思い出し、保険を有効活用できるよう、講義内容の精選に努めたいと思います。
経済法	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
経営組織論	篠崎 香織	理論的な話もあり、興味をもってもらいにくかった点が反省点です。この系の学びを進めたいという履修者が増えるよう、さらに生活と密着したテーマを扱っていくよう工夫をしていきます。
ジェンダー論	山根 純佳	予習復習時間の回答にパラツキがあったので、統一できるように工夫したい
産業経済論	山本 匡毅	本授業は、産業の理解を深めることを狙いとし、分かりやすい講義を心がけるようにしました。アンケートを見ると、授業の内容と方法については一定の評価をいただきました。ただ授業内容の理解で「まあまあ理解できた」が半数いたことは反省点です。学生の理解度にさらに気を付け、配布資料や板書もさらに工夫したいと思います。 今回、自由記述で「身近の産業について興味が深まった」とあったことは、授業の当初の目的を達成できた部分もあったのだろうと考えております。次年度に向けて、学生の授業への成績評価が高まるよう、より分かりやすく、充実した講義になるように努めていく所存です。
心理学実験実習Ⅰ	栗津 俊二	・全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.5程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。 ・なかなかへビーな課題をしてもらいましたので、平均学習時間もそれなりに長くなっています。皆さん、なかなか頑張ったと思います。
心理学実験実習Ⅰ	織田 弥生	この授業では実際に心理学の実験を行い、結果と考察をレポートにまとめるという課題を行いました。何本ものレポートは大変だったと思いますが、その分確実に力が付いたと思います。アンケート結果に関しては、授業の内容と方法・総合評価とも、全て平均以上の評価でした。予習復習時間も平均時間を大きく超えており、しっかりとレポートに取り組んでいただいたと思います。「自身の成長が実感できた」という評価も高く、力が付いたことを実感されていることがうかがえます。今後も心理学実験に興味を持ってもらえるような授業を心がけたいと思います。
社会調査実習Ⅰ	竹内 光悦	調査実習の授業のため、回答率が低いのはやや残念でした。ただ満足度も高くその意味ではよかったのかなと思います。後期も引き続き、頑張りましょう。
演習ⅣA	駒谷 真美	ゼミの卒論活動については、履修生4年生15名は個々に、3年次後期から4年次前期にかけて、インタビューやアンケートの調査や文献分析を行っている。この時期の4年生は就活期間中であった。そのため、アンケート回答まで手が回らなかったかもしれない、15人中1人回答であった。よって、アンケートの詳細について統計的な考察は差し控えたい。後期は、アンケートの実施時期や方法を学生の負担が少ない方向で検討したい。
ソーシャル・デザイン・プロジェクトA	松下 慶太	履修人数が当初の想定(30名程度)より多かったので進行の仕方など演習のオペレーションの部分で不十分な点があったので次年度以降は履修人数のコントロールも含めて調整していければと思います。
社会心理学	織田 弥生	授業の内容と方法については、2項目を除いて平均以上の評価でした。平均よりやや低かったのは「双方向授業」と「声や言葉の聞き取りやすさ」です。双方向授業は履修人数が多いと難しいですが、今後も授業内容に関するクイズを出すなど、工夫をしていきたいです。また声に関しても、広い教室ですので、はっきりと発音するように心がけたいと思います。総合評価は平均以上の評価でした。自由記述では、人間や心理学の理解が深まった等の意見が複数寄せられました。今後も興味がわくような、わかりやすい説明を心がけたいと思います。
民法概論	数野 昌三	最終授業の中で話しましたが、民法が改正されたため、現行法と新法との相違も視野に入れながらの授業、受講生にとっては、六法を開く場所が分かりにくく、難易度の高い授業であったかと思えます。 法律は知らないよりも知っておいた方が、予防法学と言われるように転ばぬ先の杖です。今後も、法律に興味をもち勉強を継続して欲しいです。
産業心理学	松浦 常夫	比較的评价が良くて安心した。

[2019（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
観光事業論	角本 伸晃	問12で4.15（全体平均3.84）、問15で4.15（全体平均4.13）と全体平均より高く評価されましたが、問11と問14では逆の結果でした。レポート課題の発表と期末試験の月日が1週間しか空いていなかったため、次年度は履修生の負担が軽くなるような日程にしたいと思います。
演習Ⅳ A	竹内 光悦	回答数が低いため、参考値になりますが、とりあえず悪くはなかったかなと思います。引き続き、卒業研究活動を進めていきましょう。
認知心理学	栗津 俊二	・全項目（学生自身の自己採点除く）の平均値が3.5程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。 ・声や言葉の聞き取りやすさの評定がやや低いため、話すスピードと声の出し方には気をつけるようにします。ただ、前に空席がありますので、前に来てもらえるともう少し聞こえやすくなると思います。
演習Ⅲ A	高橋 美和	おおむね平均値程度でしたが、「担当教員の声や言葉の聞き取りやすさ」が平均を下まわりました。正直に言って、少人数ゼミでこのような感想をいただくことは初めてであり、不思議な気がします。声量というより、説明の語彙の選択に問題があった可能性があります。全員の理解度を確認しながら、ゼミを進めていきたいと思っています。
演習Ⅲ A	数野 昌三	箱根合宿、大変お疲れさまでした。参加できなかった学生は、後期、裁判傍聴・最高裁判所見学、法の日への参加などのイベントがあるのでそちらの方に参加し、より良いゼミ活動を楽しみましょう。後期もよろしく。
演習Ⅲ A	竹内 光悦	回答数が少ないため、参考値となりますが、おおむね好意的でよかったと思います。専門ゼミという意味ではもっと自己成長や分野への興味を高めていければと思います。後期も頑張りましょう。
演習Ⅲ A	松浦 常夫	評価者は1人でした。
演習Ⅳ A	高橋 美和	おおむね平均と同等もしくは上まわっていたので特に問題はなかったかと思いますが、「授業の進むスピード」は平均を下まわりました。受講者の皆さんの就職活動の多忙さを考慮し、前半は個々人の進度に合わせた指導にしてみました。後半に提出締め切りを何回か課しましたが、その時の各回の締め切りが早すぎるように感じた方がいたということでしょう。後期はいよいよ卒論提出ですので、締め切りがあることによって研究・執筆作業の「ギアを上げる」感覚に慣れてほしいな、と思います。
演習Ⅳ A	松浦 常夫	評価者は1人でしたが5でした。
マーケティング論	井上 綾野	授業進度が早い（パワーポイントをめくるのが早い）という意見も授業中にいただいたので、全体の進度を含め、再度ブラッシュアップを図りたい。